

講座

Web 広告

村山 哲治

生成AIを活用した コンテンツ作成の ポイント

■生成AIの活用は コンテンツ生成の領域へ

ここでも何度か Web 運用において生成AIの活用について触れてきましたが、SEO対策やネット広告の文章作成などで活用する企業もだいたい増えてきたように感じます。Web 運用や戦略を担う皆さんにとって、生成AIはどのような位置づけで活用されているのでしょうか。もちろん Web 運用業務の効率化が重要な目的だと思いますが、生成AIはそれだけでなくユーザーの関心を引きつける高品質なコンテンツを素早く作り出す能力にも長けています。アマゾンでは、顧客の購買履歴や行動パターンを基に、パーソナライズされた商品推薦記事を生成しています。このようなアプローチが顧客の関心を刺激し、売り上げの増加に貢献していることが知られています。

そこで、今回は生成AIの活用がコンテンツ生成といった領域へとシフトしていることからコンテンツ戦略の革新という視点で、そ

の実態やポイントを探ってみたいと思います。

■生成AIのコンテンツ活用例 からみるメリットとは

生成AIの進化は、コンテンツ生成の分野で画期的な変化をもたらしており、この技術を積極的に取り入れたコンテンツサービスが増え始めています。そこでは運営者側と利用者側にどのようなメリットをもたらしているのでしょうか。

<ライブドアニュース24>



ライブドアが展開する「ライブドアニュース24」は、ChatGPTや自動音声技術を活用し、24時間ニュース配信サービスを提供しています。このサービスでは、生成AIが記事のピックアップから原稿作成、音声による読み上げ、動画配信までを一連の流れで自動化。これにより、運営者側は人的リソースを削減し、コンテンツの迅速な配信を実現しています。利用者には、いつでも最新のニュースを手軽に入手することができるといった利便性がもたらされています。

<アサヒビール「Create Your DRY CRYSTAL ART」>



これはすでに終了したキャンペーンです

が、日本で初の画像生成AIを活用したプロモーション「Create Your DRY CRYSTAL ART」を実施した例です。ユーザーは自分の写真とテキストをアップロードすることで、オリジナルのアート作品を生成できました。この取り組みにより利用者側は、AI技術を使って自分だけのオリジナル作品を手軽に作成できる楽しさを体感でき、顧客のエンゲージメントを高めブランド認知の拡大が図られました。

<港区「まちの子育てAIパートナー」>

これは来年から実施されるものですが、プレスリリースによると港区は子育て世帯をサポートする「まちの子育てAIパートナー」というLINE公式アカウントで、子育て関連の行政手続きをAIがサポートするものです。迅速かつ簡単な情報アクセスを提供することで行政サービスの効率化を実現し、利用者側は手続きの負担軽減というメリットが享受されることになるでしょう。この例は、企業のユーザーサポートなどに置き換えて考えるとAIコンテンツサービスの有効な手段になると思われます。

これらの事例からWebコンテンツの領域では、生成AIによるコンテンツの自動化とパーソナライゼーションがさらに進むことが予想されます。運営者側は効率化とコスト削減を、利用者側はカスタマイズされたコンテンツの体験を享受することでエンゲージメントが高まるというコンテンツマーケティングの形態や、コミュニケーションのあり方が根本から変わっていく可能性を秘めています。

■有効なコンテンツにするためのAIツールと技術の選定

そこでこうしたコンテンツマーケティング戦略を行っていくには、AIツールの選定が重要なポイントになってきます。これまでのような時間の節約や品質の向上を図る活用ではなく、戦略的な意思決定を支援するものとして次の三つの要素を考慮して選定することが望まれます。

①高度な機能性：進化するマーケットの要求に応えるために、ツールが提供する機能が最新のトレンドに対応しているかを確認する。

②統合性と拡張性：ツールが既存のシステムやワークフローと容易に統合され、将来的な拡張が可能かを評価する。

③データ処理能力：大量のデータを効率的に処理し、リアルタイムのパーソナライズデータのレスポンスをする能力があるか。

ご存じのように生成AIはChatGPTだけでなくGoogle、Microsoftの他にもさまざまなツールがあります。ツールの選定とあわせて、ターゲットユーザーに対する深い理解を基にしたデータ連動型のコンテンツから次のようなことが行われなければなりません。

・高度なデータ分析：ターゲットユーザーの行動パターンや好みを深く分析し、それに基づいたコンテンツが生成できる。

・パーソナライズ戦略：個々のユーザーに合わせたカスタマイズされたコンテンツを提供し、エンゲージメントを最大化させる。

・継続的な最適化：フィードバックとデータを活用してコンテンツを継続的に最適化し、効果を高める。

■生成AIの活用における課題と取り組み

これからのWeb運用において生成AIの活用は不可欠になってくることは間違いありませんが、その使い方には慎重さが求められます。とくに倫理面や潜在的な課題への対応、そして持続可能な運用は、Webサイト運用担当者にとって重要な問題です。

生成AIのコンテンツ活用においては、その透明性や公正性、正確性が重要です。ユーザーに対して、AIがどのように意思決定を行っているのかを明確に伝えることで、信頼と理解を深めることができます。また、データ保護法などのコンプライアンスを遵守し、ユーザーのプライバシーを守ることは、企業の責任として欠かせません。

またAIによる誤情報の拡散や偏見など、さまざまな課題が存在します。確かに便利でマーケティング効果も高いものではありますが、こうした点も十分検討して取り組むことが必要です。

(東京ドアーズ／人間力教育センター 代表)